

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400900		
法人名	有限会社プラン		
事業所名	グループホームひまわり苑 1階		
所在地	愛知県名古屋市長区大高町字北平部1-76		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	平成23年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=2371400900&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の意見などを尊重した介護をし、又家庭的な雰囲気の中で過ごしていただけるように努力している、

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、【利用者を人生の先輩として接し、家庭的な雰囲気の中で笑顔の絶えないグループホーム】を目指し、日々のケアにあたっている。管理者は、職員がケアにおいて迷った時に、「自分に置き換えて考えてみる、自分がされたらどう感じるか」と問いかけ、職員自身がケアの方法を考えていけるように指導している。地域住民との交流が困難な環境の中で、協力関係を築くために町内清掃に参加したり、中学生の職業体験やボランティアの受け入れなどで交流の機会を持ち、地域密着型サービスとしての役割を果たす努力を行なっている。地域住民が介護保険の相談に訪れることもあり、ホームの地域での位置づけは深まってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に施設の理念を貼り出し、職員全体で確認できる。	「人生の先輩として利用者と接し、家庭的な雰囲気の中で自立した生活を送って頂く…」の理念を職員はいつも心がけ、ケアの中で共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している、近隣のお祭りなどの見学に行っている、又散歩の際は挨拶を施設側から進んでいっている。	町内会に加入し、地域清掃に参加したり、散歩時には住民と挨拶を交わしている。中学生の職業体験、踊り、落語、唄などのボランティアの受け入れも行なっている。地域の住民が介護保険について相談に訪れることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	余り機会がない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議は半年に1回出来ればいいほうです、皆さん忙しいばかりで地域の方も仕事をしている為余り参加できない。	行政や地域関係者に対し、運営推進会議への参加の呼びかけを行なっているが、出席は得られていない。今年度は日程調整ができず、運営推進会議は開催されていない。	利用者のサービスの向上のためにも運営推進会議を開催し、多方面からの意見等を得られるよう、引き続き行政や地域関係者への働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方がいる為区の職員と連携をとっている、又不明な点などアドバイスしていただいている。	日常的に生活保護課、介護保険課の担当者とは密に連絡を取り合っている。困難事例などの相談も行ない、解決に向けての協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体理解しているが、やもえない時は家族に相談の上、行なうとき有り。	職員は常に「自分がされたらどうか」と考えてケアに取り組んでいる。拘束について職員全員が正しく理解し、ケアの現場では職員同士で気づいたことを、確認しながら実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉など常に意識して職員は日々の介助に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その都度対応		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの際に十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見・苦情箱設置ある際は、職員にてミーティングし改善していく。	家族の面会時には職員が積極的に話しかけ、意見や要望を吸い上げるよう取り組んでいる。ホームの駐車場の設置や服薬の方法についての希望等、出された意見や提案については改善に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度意見を聞いて、出来ることに関しては行なう。	管理者は職員が意見等を言いやすい環境づくりを行なっている。職員からは勤務シフトの要望や利用者の担当制の提案、行事の企画などが出され、受け入れて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのとど対応。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように環境を整えている、又管理者より介護指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市東南部の交流会があり、勉強会によりケアの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にゆっくりと会話し、本人の気持ちを汲み取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	じっくりと時間をとり、疑問・不安・心配事など聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	限られている為家族・本人と話し合いを行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩である意識を持って、友達感覚にならないように注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1年に3回家族参加の行事を行い、利用者との絆を持っていただく、又重度化したときでも家族と話し合い、一緒に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その都度対応	利用者にとっての馴染みとなる喫茶店やスーパーへ出かけるなど、本人の希望に沿った支援に取り組んでいる。職員と出かけCDを購入し、趣味を継続する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクなどに参加し色々な交流をして頂いている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際は家族に相談ごとなどあればいつでも連絡くださいといっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いを、表情・行動などで、受け止め、会話の中からも把握できるように努めている、家族からの情報も頂き職員全体で共有している。	利用者の言葉、表情などから思いや意向の把握を行ない、ミーティング時などに職員間で共有している。意志疎通の困難な利用者は、アイコンタクトや仕草などから思いを把握し、本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族より情報を頂いている、又その都度情報を頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で把握している、センター方式使用。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はセンター方式使用、職員・管理者・計画作成は本人・家族の意見・要望などから介護計画の作成をしている。	職員は日頃のケアの中での気づきを記録し、介護計画の作成につなげている。計画は職員にとって無理のない、現状に即した課題をもとに作成している。今後は、より職員の意見が反映できるよう、利用者を担当制でケアする体制づくりを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の切る区用紙に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのとど対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしていないが、利用者が楽しく生活できるように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に連携の病院に情報提供し、適切な医療が受けられるように対応している、又入居前に受診していただいている。	利用者は全員がホームの提携医に受診している。医療連携加算体制をとっており、月に1回の提携医の往診、週に1回の看護師の訪問があり、夜間緊急時の対応も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師出勤が少ない為必ず情報提供している、介護職員より連携病院に連絡対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院と話し合い、こまめに状態報告などいただけるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が生じる場合には、医療機関との連携はかり、家族との話し合い、対応している。	重度化や終末期に関する書面を作成し、入居時や段階に応じて家族と話し合いを行っている。看取りについては、医療面での環境を整備し、家族の協力が得られるという前提で行なう方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より指導、又救急救命の講習などを受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回の避難訓練を行い、職員連絡表が掲示してあり緊急時に生かしてある	消防署の指導のもと、夜間を想定した避難訓練を実施している。スプリンクラーの設置計画もあり、避難経路についての確認も行っている。	災害時に地域住民との相互の協力が得られるよう、今後も引き続き地域への呼びかけが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録など個人情報の場合イニシャル記入し、情報は口外しないように徹底している。	ポータブルトイレを利用する部屋には、ドアの内側にカーテンを取りつけ、プライバシーを確保できるよう取り組んでいる。トイレへの誘導時にはさりげなく声をかけ、下着の取り換えについても個人別の下着をトイレの中に置くなどの配慮も行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定にて希望に沿うようにしている、体調にも配慮して支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者のペースに合わせた介護をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みあり、個々にされている、出来ない利用者については介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、食材を配達で依頼職員が調理、ホームにて作った野菜を収穫して食べている、食器についても、洗える利用者は出来る限りして頂いている。	宅配業者による食材を職員が工夫し、利用者の好みの味付けや固さに調理している。行事では職員がメニューを考え、利用者が楽しめる食事づくりを行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者にて、栄養バランス計算されている、バランスの取れた献立になっている。水分量もチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力にて、自己でされる方も、終了時チェックし、出来ない方については介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用者については、その都度対応、綺麗に使用されている時期が長ければ、はずして声掛けに手対応。	利用者の状態に合わせて、職員がトイレでの排泄に向けて誘導を行なっている。個人記録に排泄の記録をしたうえで、職員間で共有し自立した排泄に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者が個々に訴えが出来るので、その都度対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴して頂いている、又入浴剤などで気分転換などしている、時間は午前と午後に分けている。	基本的に毎日入浴を行ない、時間帯や順番などはなるべく利用者の希望に沿うよう対応している。入浴拒否の場合には、お湯の色や香りを工夫したり、職員の声かけによって入浴を楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人にて、横になりたい時、一人になりたい時は、自由に居室に戻られている、その際軽く職員より声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどのような薬を飲まれているか職員が解かるようにファイリングしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な利用者については、無理にではなく進んでしていただけるように、声掛けしている、洗濯干し、たたみ、などして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出しない利用者にも、声掛けして散歩、買い物、喫茶店に行く、希望があればその都度対応、家族に対しても外出、外泊の協力を依頼している。	本人の希望があれば、買い物や喫茶店などへ職員とともに出かけている。歩行困難な利用者も一緒にお弁当を持参して近隣の緑地公園に出かけたり、気分転換にホーム周辺に職員とともに散歩に出かける支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方に関しては、家族と話し合い所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で電話したい時は、職員より連絡し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けしている、また行事などの思い出の写真など掲載している。	居間兼食堂は広々としており、畳敷きのスペースにはソファとテレビが置かれ、利用者の寛ぎの空間となっている。庭にはバーベキューができるデッキが設けられ、その先には花壇や金魚が飼われている池もあり、生活感や季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみスペースがあり、座りながら話ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の個人荷物は、全てが使い慣れた物で、それぞれ工夫されている。	居室には、使い慣れたタンスや仏壇、趣味のオーディオなどを持ち込んでいる。クローゼットの収納スペースも広く、職員と共に衣類などが整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、フロアなど広く、手摺り、などがあり歩行しやすきしている、トイレ、居室に表札があり解かりやすくしている。		

(別紙4(2))

事業所名 ひまわり苑

目標達成計画

作成日: 平成 22年 12月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が1年に6回開催できない、近隣の状態、メンバーの状態から。	出来る限り1年に6回開催できるようにしていく。	以前も声掛けなどアプローチしているが、今年も来年も、根気欲、センターさん区役所さんに声掛けしていく、	ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月